

書評

ど、農業上問題になる帰化雑草について、これらの問題に取り組んでいる最前線の研究者の研究成果をコラムとして20数篇が記載されていて、農業特に畜産関係者には貴重な資料でおすすしめしたい。

さらに巻末には約270種類の帰化植物の種子（果実を含む）の写真が掲載されている。長さ1mm内外の種子が実に鮮明な写真で掲載されていて、見るだけでも楽しくなるが、帰化植物の種子がこれだけ収録されているのは類書がなく、貴重な資料である。

ただ、惜しむらくは、現在帰化植物は約800

種ともいわれ、欲をいえばもう少し多くの種が記載されていれば、一層充実したと思われるのが残念である。しかし、600余種でも長い間この種の図鑑が発刊されていなかったことを思えば十分満足のいくもので、近い将来続篇の刊行を期待する。

竹内安智（宇都宮大学教授）

●「日本帰化植物写真図鑑」B6判・560頁・

定価4,300円＋税

編著・清水矩宏／森田弘彦／廣田伸七

発行・全国農村教育協会

電話 03-3833-1821 FAX 03-3833-1665

「雑草科学実験法」

総ページ数460, B5版, 定価 5,000円（雑草学会会員価格：4000円）

問い合わせ先：日本雑草学会事務局（〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6, 植調会館 6F,
E-mail:wssj@mua.biglobe.ne.jp, TEL&FAX:03-3834-6375）

日本雑草学会は本年創立40周年を迎え、その記念事業の一環として「雑草科学実験法」を平成13年4月に刊行した。本書は雑草科学の内外約70名が関わっており、幅広い分野を網羅している。分野ごとにそれぞれ先端研究者が担当しており、専門性の充実だけでなく、up-dateな内容が含まれている。また、実験室に持ち込める「実験書」を念頭に執筆されているので、全般に平易かつ具体的に解説されている。大学等の基礎研究者から雑草防除に携わる普及関係者まで座右の書として大いに役に立つと考える。

本書の構成は、総ページは約460ページ、1ページに盛り込まれている内容は豊富で引用文献や索引も充実している。第1章として雑草の生物・生態に関する実験法があり、雑草の同定、雑草の形態・生理・生態に関する調査、作物－雑草相互作用試験法および雑草利用等、対象である雑草の基本的試験法について述べている。これについては、雑草防除に限らず、山野草を調べたり、様々な目的で植物を扱う試験を実施したりする際にも役立つ情報が盛り込まれている。第2章は雑草防除・管理試験法であり、化学的防除法を中心に、試験設計の基本や機械的、物理的、耕種的、生物的防除法にも触れている。化学的防除では、単なる除草剤試験だけでなく、試験設計の基本から、混合剤、各種薬害等についても記載されており、その他の防除法にも有効な情報が盛り込まれている。第3章は除草剤の生理作用試験法で、アレロパシーを含む生物生理反応解析に関する試験法、既存除草剤の作用点試験法や除草剤の解毒代謝酵素に関する試験法について書かれている。さらに現場で使える除草剤抵抗性雑草の各種簡易検定法についても個々に記載してある。第4章は除草剤の環境中動態試験法で、除草剤の環境中動態に関する試験法および除草剤残留分析法に関する最新の情報をカバーしている。やや専門的なELISA法（免疫学的検出法）についても平易に書かれている。また付録・解説として実験計画法および統計解析法の基本的な考え方についても簡単に触れてあり、自然科学の統計学の入門者にも役立つ。

（よ）